

## 鳥取県日野地区連携・共同協議会設立準備会及び第1回協議会 会議概要

日時：平成22年7月23日（金）午後1時から1時45分まで

場所：日野総合事務所大会議室

出席：知事、行財政改革局長、地域づくり支援局長、日野総合事務所長、日南町長、日南町副町長、日野町長、日野町総務課長、江府町長、江府町副町長

### 1 知事あいさつ

- ・ 今日では地方自治の世界で大きな一歩を踏み出す日。県と町、また町同士間も一緒になって知恵を出し、一緒になって事務を進め、サービスを提供する。その結果、サービスのレベルが高まり、色んな知恵が集まる。そうして住民の皆さんが喜ぶ結果になると思う。
- ・ 先日も、日南のほうで大災害、集中豪雨があり、私もその現場に行った。増原町長から聴いたのは、鳥取県だけではダメかもしれないが、皆で激甚災害の指定を目指すべきではないだろうか。昨日電話で広島県知事と話をし、賛同をいただいた。早速一緒に要望して、国のほうに上げて行くことになった。
- ・ まずは当面、障がい者福祉、共同発注をして行政効率を高める、発達支援の課題、共同で対処し、様々な分野で共同の作業を行うことができるだろうと思う。
- ・ 4分野の協定を結び、さらに次の世界へと飛び出していけるように、是非、芽を育てていきたい。全国的にこうした協議会というのは、ほとんどなく、鳥取県の地方自治というのは全国でも最先端のレベルに達していると思う。リーダーの気概を持って住民のために奉仕できる真の連携・共同協議会を形成していけるように、お互いに頑張ることを誓い合いたい。

### 2 設立準備会

#### (1) 経過報告及び規約案説明

宮本副町長：21年の7月に日野郡の3町の町長、そして県の担当局長、日野総合事務所長、それぞれ意見交換を行い、広域行政のありかたを協議する協議会及び研究会の設置をしようというふうな決定された。これに基づき、協議会を3回、研究会を9回、専門部会を適宜開催。

関係団体における議会の議決状況は、6月に4団体すべてが議決済。

本協議会の規約案について説明。目的は、鳥取県、そして日野郡の3町がそれぞれ事務を連携共同で管理執行し行政サービスの維持向上、効率的な行政運営を促進すること、及び日野郡の諸課題の解決に寄与すること。

担当事務は5事業。日野郡内の障がい者雇用に関する事務など。

今後の検討課題等は、事務の連携及び共同化に関する協議で今後さらに検討を深めるというものの中に道路の維持管理及び除雪或いは保健福祉、教育等々のものを掲げている。

事務所の所在地は、鳥取県日野総合事務所内に設置し、実際の管理執行事務については、それぞれの構成団体が分担をして行う。

会長は、関係団体の長の中から関係団体の長が協議して定める。

この後、委員の皆様方に協議をしていただき、決定をしていただく。

設置時期は、関係団体の長が協議により定める日（施行日）。

研究会としては、本日をもって設置の日と考えているが、委員の皆様で規約の案を協議していただく際に決定していただきたい。

## (2) 規約案承認及び施行期日決定

山根局長：規約案については、全員拍手により承認。

規約の施行日は、平成22年7月23日とすることで関係団体の長が協議。

平成22年7月23日、鳥取県日野地区連携・共同協議会が発足。

準備会終了。

## 3 第1回協議会開会

### (1) 会長選出

山根局長：協議会規約第7条の規定に基づき、本協議会の会長は、関係団体の長の中から協議により定めるものとなっていることを説明。

藤井所長：会長の選出に当たっては、4団体が同じ立場で協議会を作るという趣旨で発足しており、3町長並びに県、この4者が同立で同じ立場で決めていただけるよう、各委員さんの御意見を頂戴したい。

景山町長：私は日野郡の入り口であります江府町の竹内町長さんに会長をしていただければと、お願いいたします。

増原町長：了解。

平井知事：年長でもあり、竹内町長にまずはやっていただくということでいいと思います。その後、職員の研修の意味もありますので、順番に回していくとか、今後ルールは確立をしていけばと思います。

増原町長：了解。

竹内町長：御指名を受けては、立たなければならないと思っています。

藤井所長：竹内町長の会長就任ということで、御異議ございませんでしょうか。(拍手)  
これが固定という訳ではなくて、やはり3町と県同一の立場の中で、また順次、それぞれの役回りを担っていただければと思います。

山根局長：江府町竹内町長様に会長をお願いするということで決定しました。

規約第15条の規定に基づき、会長に議長として議事進行を行っていただきます。

### (2) 会長あいさつ、職務代理委員指名

竹内会長：御指名を賜りましたので、頑張って進めてまいりたいと思います。皆さんの御協力を得ながら、この新しい連携共同の協議会が、きちんと胸を張って進めるように頑張っていきたいと思います。

そうしますと、私のほうで議事を進行します。

職務代理の指名。人生経験も豊富な景山町長に職務代理をお願いします。

景山町長：了解。

竹内会長：職務代理委員を景山町長に決定します。

### (3) 1号～3号議案の承認、会議録署名委員の決定

古都副局長：1号議案から3号議案までの3規程を一括して提案、説明。

竹内会長：議案第1号から3号まで承認。会議録署名人は、会長職務代理以外の日南町と県。

#### (4) 第4号及び第5号議案の承認

古都副局長：議案第4号と5号までを一括して提案、説明。

協議会に属する現金の預入金融機関に山陰合同銀行根雨支店を提案。

監査を行う町の監査委員の選任に日野町を提案。

竹内会長：議案第4号から5号まで承認。

#### (5) 第6号及び第7号議案の承認

古都副局長：議案第6号と7号までを一括して提案、説明。

平井知事：確認事項として、今年度は事業計画に列挙してあることで是非大きな一歩を踏み出して行けばいいと思う。それぞれのチームで共同作業する。「あ、こういうこともできるんだ」と、色々見えてくる。その辺は柔軟に対応してもらってもいいし、4分野以外でも、「こういうことができるのではないか」とか、そういう意見交換も幹事会、或いは事務局ベースを通じ、今後随時やって行って、少しずつ今後取り組みを前へ前へと進めて行ければいいのではないかと思う。

また、これは協議会であり、それぞれの市町村と県とでいわば割り勘的で、最終的にはそっちに来るため、これ自体はこんなちっぽけな予算になるということになると思う。

それでまずはやってみて、これも来年度以降こういうふうには例えば法律を作ったほうがやりやすいとかあるのでしたら、今後の改善点として考えて行けばいいかなと思っている。

以上が意見。

竹内会長：議案第6号から7号まで承認。

#### (6) 意見交換

増原町長：障がい者の雇用、社会進出という中では、働き場の確保、それが一つの町村の中ではなかなか出てこない。例えば3町と日野総合事務所となった場合どうなるか、その方を全部一週間採用するのはなかなか難しいが、例えば一日だけでも、そういう形で雇用できれば、それが一つの切り口になるのではないかなと思う。

また、日南町が担当しております消費者行政について、都市型の消費者行政と、田舎型の消費者行政とは違うと思う。これをきっかけとして、中山間地、また過疎地というふうなものも在り方も含めて、共同研究になればなど、これは多分日南町を含めて日野郡3町の共通の行政課題だというふうに思っている。今後これをどう具体的にしていくかというのがうんと湧いてきているというふうに思う。

景山町長：町長レベルの意見交換の場が、この日野郡では、公式な場というのは全く無かった。

首長が一同に寄って集まって忌憚の無い意見を出すという場、これが今回の連携共同協議会というものと私は理解している。

日野郡3町は手を携えて、力を出し合って助け合って行かなくては日野郡というものが持ちこたえられていかない。

特に日野町においては、日野高校をどう支えていくのかというあたりを、大いに議論していく必要があるのではないだろうかと思っている。

住民の皆さん方の安心・安全に繋がって住みやすい地域づくりに大きく貢献していくんだらうというふうに思う。

竹内会長:今日やっと日野総合事務所ができてからの一つの大きな課題が解決したのではないかなと思う。議論を重ねてきたが、それが具体的なものにならなくて、町の責任者である私共がお互いに意見を言って、同じ日野郡の状況の中で課題を解決して行くというようなことが必要であった。それがようやく今日きちんとした形になった。

具体的な事業には、障がい者雇用についても、今行われている菜種をどんどん日野郡で作ろうと、それを持ち寄って油を搾っていただく。そういうところに障がい者の皆さんの雇用が増えていく。結果、特産も出来てくる。農業生産の一つの大きな特産にもなってくる。幅広い動きの中で雇用創出も生まれてくるのではないかなという大きな期待もしているところ。長年の思いが今日実ったと思う。

平井知事:私も3町長さんのお話を伺って良かったなと思いました。安心したという感じがした。

これから新しい地方自治の時代をこの4者で開いて行くこと。その責任も重いというのも同時に痛感をした。個別の行政分野では、単町ではできない或いは県の事務所も含めて考えて行って初めて可能になることも色々あると思う。色んな意見交換をして実践を繰り返しながら作り上げて行くというのができれば良いと思う。

今まで3町で町長同士での話があまり無いということであれば、もっとこれの裏会をやってもいい。私も是非参加させていただきたい。話し合っていると色んな知恵が出てくると思う。

それぞれの町の行政をしっかりやってもらって、厳しい議会も当然あるし、住民の方の声もある。しっかり受けとめてもらって、ただそれを一つの町や県だけでやるのではなくて、一緒にやったほうが良いというものは、むしろ大胆に我々が作り上げていければ多分時代は変わってくるんだろうと思う。

日野郡に住んで良かったなと、言ってくださる住民が確実に増えて来るようにこの連携共同協議会を育てて行きたいと思う。